

今まで同じ幼児を育てながら、そのねらいが違つたこと、なかなか連携をとることができなかった幼稚園と保育園、育てた子どもを送り出しながら、指導者同士の連携がとれなかつた幼稚園・保育園と小学校、中学校の教諭、保育士が同じ土俵に上がることができました。子どもたちの望ましい成長に必要なものは何かをテーマに議論することができるようになり、まずは一歩前進できたと考えています。

さらに、保護者の代表にも加わってもらいましたので、家庭教育の在り方についても検討していくことができます。

「家庭と学校・保育園・幼稚園が共通理解を図らなくては子どもはよい方へは育ちません」という言葉をよく聞きます。実際に問題が起こったときには、教諭と保護者は話し合いを行つていきます。しかし、その内容は目先の子どもの姿だけについての話し合いがほとんどで、十五歳の子どもたちの姿を見据えての話し合いはなかなかなされていないのが現状です。

このプロジェクトで、時間をかけて保護者と教諭が話し合つのは大変有意義なことです。

七 プロジェクトの全体像

プロジェクトでは、子育てについて三つの柱を中心に話し合い、その望ましい指導の在り方について明らかにしていきます。

全体イメージ

